

発刊に当たつて

後志教育研修センター

所長 和田徳夫

後志教育研修センターでは、事業の一つとして調査研究事業を推進しております、町村から選ばれた所員が研究委員会を組織して研究に取り組んでおります。「自ら考える力を育む学習指導の工夫」を研究主題として三年計画の今年度は最終年度に当たります。三年間の研究のまとめを紀要として発刊されますことに際し、心より感謝と敬意を表します。

さて、本調査研究のキーワードは「習得」「活用」であると考えます。習得・活用がなぜ必要なのか。それは「基礎・基本の定着」が学習指導を展開する上で何よりも大切であること。課題意識をもって学習していくためには、習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用していくことが大切である。という理論背景で研究の深化を図って参りました。

「習得」「活用」これらの言葉を聞いてやはり教育の歴史は繰り返されるという感じがいたします。「ゆとりと充実」という言葉が出てきたときには、知識偏重、偏差値重視ということの反省からゆとり教育が呼ばれたと思いますし、もっと昔には、理科でいうと生活単元学習が重視され、活動を中心としたために子ども達に何が身に付いたかが問われる時代もありました。そのことを受けて、系統性の学習が求められ基礎・基本の定着が求められた時代もありました。最近ではまたこの系統性を重視する動きが出ております。言葉としては、「習得」「活用」となってきておりますが、単元構成、学習指導過程、評価のそれぞれの段階で習得と活用のバランスをとって指導に当たることが大切であることがこの研究を通して確認されたのではないかと考えます。

本年度九月に第六十四回北海道教育研究所連盟研究発表大会後志大会が俱知安町で開催されました。センター所員が一丸となってこの大会を成功裏に終わらせることができました。第一部会（学びの部会）でも後志の研究が発表され、研究に携わった所員の方々にとっても印象に残った大会であったと思います。

終わりになりましたが、この研究に当たり数多くの検証授業を提供された先生方、理論と実践を結びつけ、3年間の研究をまとめてくれた研究委員の方々、それを側面から支えていただきました校長先生方、公務多忙の中ご指導いただきました後志教育局指導主事の方々に厚くお礼申し上げ発刊の挨拶といたします。